

# 議 事 録

## I 全体会議

### 1. 第1回全体会議

日 時：昭和61年9月5日(金) 午後1時～2時

場 所：大阪府立母子保健総合医療センター

出席者：厚生省母子衛生課 網野 豊

主任研究者 竹村 喬

分担研究者 多田 裕, 中野 仁雄, 小川雄之亮

研究協力者：

(多田班) 井村 総一, 柴田 隆, 竹内 徹, 竹峰 久雄, 谷澤 修,  
仁志田博司, 本多 洋, 水野 正彦(代. 桑原慶紀)

(中野班) 池ノ上 克, 佐藤 章, 神保 利春, 武田 佳彦, 竹村 秀雄,  
千葉 喜英, 寺尾 俊彦, 西島 正博, 野口 圭一, 下川 浩

(小川班) 五十嵐郁子, 稲川 昭, 鬼頭 秀行, 後藤 彰子, 竹内 豊,  
千葉 力, 中村 肇, 戸苅 創(代. 渡辺 勇), 増本 義

会議は小林の司会のもとに午後1時開会、竹村主任研究者、網野厚生省課長補佐、倉智敬一大阪府立母子保健総合医療センター総長のあいさつがあり、出席者の自己紹介の後、議事にはいった。

全体会議のあと、午後2時より各分担研究者を班長とする班会議、午後3時より大阪府立母子保健総合医療センターの施設を見学、午後4時解散した。

### 議 事

#### 1) 厚生省心身障害研究の概要説明

厚生省心身障害研究の概要説明が以下のように竹村主任研究者よりなされた。

昭和61年度より、心身障害研究の研究課題が再編成され、“発生予防、領域10課題”“療育、領域8課題計18課題に分れている。当「周産期医療をめぐる諸問題に関する研究」は、“発生予防、領域の1課題である。

#### 2) 「周産期医療をめぐる諸問題に関する研究」班の概要説明

竹村主任研究者より当周産期をめぐる諸問題に関する研究班(周産期医療問題班と略)の位置づけ、組織、計画などについて説明があり、全員これを了承した。

なお、本研究班は各分担研究者(多田、中野、小川)のもとに、3つの班を作り、以下

のような問題について検討することになった。

(1) 「周産期医療システム」班

(班長、多田裕・都立築地産院小児科部長)

1. 研究の総括
2. 周産期医療の地域化
3. 管理指針

(2) 「母性・胎児医療システム」班

(班長、中野仁雄・九州大学医学部婦人科産科教授)

1. 周産期救急患者の受入施設（周産期センター、協力病院）とその協力体制
2. 母体搬送
3. 情報伝達
4. 地域化医療のシステム評価基準

(3) 「新生児救急医療システム」班

(班長、小川雄之亮・埼玉医科大学総合医療センター小児科教授)

1. NICU 受入基準設定
2. 受入施設の協力体制
3. 患者移送体制
4. 救急情報システム
5. NICU 退院児のフォローアップ

3) 経理事務について

昭和61年7月23日に厚生省で行われた主任研究者会議の席上伝達された研究費配分、および経理事務上の留意点について小林より報告説明した。

## 2. 第2回全体会議

日 時：昭和62年2月16日(月) 午後1時～5時半

場 所：KKR 東京竹橋（竹橋会館）

出席者：厚生省母子衛生課 網野 豊

主任研究者 竹村 喬

分担研究者 多田 裕, 中野 仁雄, 小川雄之亮

○稲川 昭 日鋼記念病院（児）

萩沢 正博 北海道大学分娩部（児）

○千葉 力 青森市民病院（児）

川瀬 淳	埼玉医大総合医療センター (児)
新津 直樹	〃 (児)
○竹内 豊	松戸市立病院 (新生児)
柳田 昌彦	都立築地産院 (産)
三科 潤	〃 (産)
佐藤 紀子	〃 (児)
岡田 清	都立母子保健院 (産)
海野 信也	東京大学 (産)
○桑原 慶紀	〃 (産)
○井村 総一	日本大学 (児)
○武田 佳彦	東京女子医大 (産)
中村 正雄	〃 母子センター (産)
○仁志田博司	〃 〃 (新生児)
村岡 光恵	〃 (産)
石塚 祐吾	国立東京第二病院 (児)
○本多 洋	三井記念病院 (産)
赤松 洋	日赤医療センター (新)
○西島 正博	北里大学 (産)
源田 辰雄	〃 (産)
浅中 仁司	〃 (産)
○後藤 彰子	神奈川県立こども医療センター (新生児)
○柴田 隆	順天堂大伊豆長岡病院 (児)
秋山 正	〃 (児)
稲本 裕	浜松医科大学 (産)
○寺尾 俊彦	〃 (産)
○鬼頭 秀行	聖隷浜松病院 (児)
○戸茺 創	名古屋市立大学 (児)
大内 正信	〃 (児)
○谷澤 修	大阪大学 (産)
大槻 芳朗	〃 (産)
○野口 圭一	愛知県産婦人科医会
○竹内 徹	大阪府立母子保健総合医療センター (新生児)

- |        |                       |
|--------|-----------------------|
| 藤村 正哲  | 大阪府立母子保健総合医療センター（新生児） |
| 小林美智子  | ”（企画調査部・児）            |
| ○千葉 喜英 | 国立循環器病センター（産）         |
| ○竹村 秀雄 | 大阪府産婦人科医会             |
| ○竹峰 久雄 | 兵庫県立こども病院（新生児）        |
| ○中村 肇  | 神戸大学（児）               |
| ○五十嵐郁子 | 国立岡山病院（児）             |
| ○神保 利春 | 香川医科大学（母子）            |
| 磯部 健一  | ” 母子センター（新生児）         |
| ○下川 浩  | 九州大学（産）               |
| 前田 博敬  | ”（産）                  |
| 森下 裕   | 福岡市（産）                |
| ○増本 義  | 国立長崎中央病院（児）           |
| 安田 一郎  | ”（児）                  |
| ○池ノ上 克 | 鹿児島市立病院周産期医療センター（産）   |
| 上 正人   | ”（産）                  |
| 近内 育夫  | 磐城共立病院（児）             |
- （○は研究協力者）

## 議 事

1月18日開催の多田班（総括班）において、その直前に行われた中野班、小川班での報告をふまえ協議された。その結果、全体会議にはかつて十分意見交換し結論を得た方がよいと思われるものについて、全員が参加討議することがきまった。これをうけて今回は時間の関係もあり、一先づ次の6題がとりあげられた。

### 話題提供者

- |                        |          |       |
|------------------------|----------|-------|
| 1) 母体搬送について            | 東京女子医大   | 武田 佳彦 |
| 2) 母体搬送の実情と問題点         | 聖隷浜松病院   | 鬼頭 秀行 |
| 3) 地域での周産期医療のシステム化について | 大阪・小阪産病院 | 竹村 秀雄 |
| 4) 2,500g未熟児の出生体重別年次推移 | 浜松医大     | 寺尾 俊彦 |

5) 超未熟児入院はまだまだ増えるのか

国立長崎中央病院

増本 義

6) chronic intensive care bed の必要性

松戸市立病院

竹内 豊

上記研究協力者からの話題提供を受けて、参加者間で活発な意見交流が行われた。わが国の周産期医療は各国と比較し優れた成績をあげているが、いまだ施設や要員の点で多くの未解決の問題があり、また施設間の連携についても地域毎に多くの問題点があることが明らかになった。

来年度はひき続き共通の基準で各地域、各施設の現状を調査し改善策を検討していくこととなった。

## II 分担研究会議

### 1. 多田班：周産期医療に関する総合的研究班

#### 1) 第1回

日 時：昭和61年9月5日(金) 午後2時～3時

場 所：大阪府立母子保健総合医療センター

出席者：厚生省母子衛生課 網野 豊

分担研究者 多田 裕

主任研究者 竹村 喬

研究協力者：

井村 総一，柴田 隆，竹内 徹，竹峰 久雄，谷澤 修，仁志田博司，

本多 洋，水野 正彦（代.桑原 慶紀）

議 事

#### (1) 分担研究会議の研究目的について

心身障害発生の原因の多くは周産期の異常であり、出生前後の管理の改善が大きな意味を持つ。そのためには産科と小児科が一緒になった診療体制を確立することが大切である。このような主旨をふまえて周産期医療のあり方について検討を行う。

#### (2) 分担研究会議の年次計画について

今年度はこれまでに発表された諸成績を収集し、施設間の比較を行い総合的な討議を行う。そして次年度には集計のための基準を作成し、その基準にもとづいた各施設成績を検討する。第3年度は全体のまとめを行い、周産期医療の問題点とその対策、あり方について提言する。

(3) 初年度の研究計画について

第2回分担班研究を1月16～18日の間に行い、今年度の研究成果の報告会とする。

2) 第2回

日時：昭和62年1月18日(日) 午後3時～5時半

場所：東京ステーションホテル

出席者：厚生省母子衛生課 宮城島一明  
分担研究者 多田 裕  
主任研究者 竹村 喬  
分担研究者 中野 仁雄，小川雄之亮  
研究協力者 大槻 芳朗，川瀬 淳，小林美智子，柴田 隆，下川 浩，  
竹内 徹，竹峰 久雄，谷澤 修，仁志田博司，本多 洋，  
水野 正彦（代. 桑原 慶紀）

議 事

(1) 中野班、小川班の中間報告

直前に行われた中野班、小川班の報告があった。その要旨は次の通りである。

① 中野班

- ① 母体・胎児搬送システムについては、患者の搬送システムとともに医療情報の伝達システムが重要である。
- ② 地域全体としての生産、死産の分析（体重別）が不可欠である。
- ③ 産科救急システムについては、大阪方式と愛知方式などがある。
- ④ 母体搬送の定義を統一する必要がある。

② 小川班

- ① NICUの定義が保険上の定義と必ずしもあわない場合があること。
- ② 超未熟児が増えているが、アフターケアをNICUがどこまでするのがよいか。
- ③ 満期産の重症児の問題も、さらに取組む必要性がある。
- ④ 都会型でない地方での新生児医療システムのあり方についても検討する必要がある。

(2) 研究報告

各研究協力者から次のような報告があった。

本多 洋	「母子救急体制」についての全国調査
谷澤 修	周産期医療システムに関する内外の動向
竹内 徹	大阪府下における新生児医療の現状
柴田 隆	地域化による新生児医療の問題点 —— 静岡県の場合 ——

竹峰 久雄 兵庫県の新児死亡調査よりみた周産期医療事情

仁志田博司 新児医療における医の倫理に関する研究

(3) 今後の方針

2月16日(月)に、全体会議を開催し、広く関係ある人々の参加も得て、意見交流をはかることとすることになった。

## 2. 中野班：母性、胎児医療システムに関する研究班

### 1) 第1回

日 時：昭和61年9月5日(金) 午後2時～3時

場 所：大阪府立母子保健総合医療センター

出席者：池ノ上 克、井口登美子、佐藤 章、神保 利春、竹村 秀雄、千葉 喜英、

寺尾 俊彦、西島 正博、野口 圭一、中野 仁雄、下川 浩

#### 議 題

#### 報告事項

##### (1) 研究組織の構成

配布資料を参考に報告

##### (2) 研究費の配分及びその事務処理

- ① 配布した「心身障害研究費国庫補助金の事務処理について」を参照のこと。
- ② 本年度の研究費は、研究協力者一人当たり60万円を予定している。
- ③ 経理は個人経理とする。11月25日までに銀行口座をつくり、事務担当下川あて連絡する。口座名は「厚生省心身障害研究、母性・胎児医療システムに関する研究班、研究協力者名」とする。
- ④ 印鑑は本研究班用に一個用意し、本研究班関係の書類への捺印は同一印鑑を使用する。使用した印鑑は会計報告時、一緒に提出し返却されない。
- ⑤ 全ての出費に証拠書類が必要で、消耗品については見積、納品、請求、領収書が必要、支払日は口座からの引き出し日と一致させる。(立替払いをのぞく)証拠書類は研究協力者の責任で保管しておく。
- ⑥ 立替払いは、6月20日から口座への入金日の前日までの出費に対して行うことができる。口座入金後の支払は立替払いはできない。
- ⑦ 領収書の宛先は分担研究者中野仁雄とする。
- ⑧ 賃金は3,740円/日、謝金は医師10,570円/日、医師以外5,450円/日。
- ⑨ その他不明な点があれば事務担当下川まで連絡して下さい。

## 協議事項

### (1) 年次研究計画

研究計画概要にもとづき行うことで了解を得た。

### (2) 初年度研究計画

各研究協力者から、研究課題に関するそれぞれの地域・施設の現状について報告があった。地域の特徴に応じた周産期医療システムが模索、試行されているようで今後システムの共通項と特殊項を明確にしていく必要がある。「討議資料」に記した調査事項に関しては、1-4について具体的に数字で報告する。報告の形式については分担研究者で検討する。

研究成果は第2回研究協力者会議で口頭で報告し、報告書は2月16日までに原稿用紙3枚にまとめて分担研究者に提出する。その際、参考にされた文献、今後の研究に有用と思われる文献、あるいは関係資料はできるだけ多く分担研究者に送付する。竹村班全体として資料集を発刊することになっており、そこに盛りこむことになる。

## 2) 第2回

日 時：昭和62年1月18日(日) 午前10時～午後2時半

場 所：東京ステーションホテル 藤の間

出席者：池ノ上 克、稲本 裕、大槻 芳朗、神崎 徹、佐藤 章、柴田 隆、  
神保 利春、武田 佳彦、竹村 喬、竹村 秀雄、多田 裕、千葉 喜英、  
寺尾 俊彦、中林 正雄、西島 正博、仁志田博司、野口 圭一、本多 洋、  
中野 仁雄、下川 浩

### 議 題

#### 報告事項

##### (1) 会計報告書、研究報告書作成に関する報告

会計報告書作成についての注意点は、小林先生より報告があった。特に、旅費の記入方法では今年度から「支出予定(済)額内訳書」及び「旅費精算内訳書」の二種の報告書が追加になり、B5版「旅費精算書」と共に記入し提出することとなった旨報告があった(資料配布済)。今年度から片道1,000km以上の場合、航空機の使用を認めるとのことで、航空機使用の場合証拠書類を添付しておくこととのことであった。

会計報告書は、2月25日までに中野班事務担当、下川まで提出し、その時銀行預金通帳、利息計算書、印鑑を同封すること、主任研究者への提出期限が3月15日の為、提出期限厳守の旨報告された。

研究報告書は、2月16日の全体会議までに下川宛に提出する。また、資料、文献等も資

料集作成の為に2月16日までに送付、提出する。(詳細は昭和61年12月8日の竹村主任研究者よりの連絡資料を参照のこと)

(2) 今後の日程

2月16日 竹村班全体研究協力者会議、研究報告書、資料・文献等提出締切日。

2月25日 会計報告書提出締切日。

(3) 研究報告

下記プログラムに従い10名の研究協力者から研究報告が行われた。全体をとうしての問題点を整理すると、

- ① 母体搬送の定義で不明確な部分があり今後その評価をしていく時、一定の細分化をしていく必要がある。しかし、当面当班で母体搬送の細かい定義は行わない。評価との関連で中林の報告にみられる搬送時妊娠週数と分娩時妊娠週数を図表化したものは有用と思われる。
- ② 昨年は1,000g未満の出生数が減少している印象がある、との報告が神保よりあり、討議のなかで同様の印象を持っているとの意見が静岡、大阪、鹿児島より出された。これが事実とすれば大変重要なことであり、今後 Population Base で検討していく必要がある。
- ③ 医療システムの設計の問題では現在進行している地域として竹村、野口から報告された。地域に応じたシステム化が進められている。システム化は大別すると集中型と分散型に分類できるようである。一次医療機関、二次医療機関での従来の分散型管理の長所をいかしつつ三次医療機関の位置をきめる必要があるとの意見もだされた。また、二次医療機関から三次医療機関への患者の流れが少なく、今後二次医療機関と三次医療機関との関連を明確にしていく必要がある。
- ④ 今回の研究協力者会議では、医療機関相互、搬送担当部署と医療機関での患者情報の伝送については十分な討議を行えなかった。

の以上4点である。

プログラム

1. 池ノ上 克 「当センターにおける母体搬送の現状」
2. 佐藤 章 「福島県における周産期医療の実態」
3. 神保 利春 「周産期医療システム——香川県の現状」
4. 武田 佳彦 「東京女子医大における母体搬送の実態」
5. 竹村 秀雄 「大阪における周産期医療のシステム化について、特に産婦人科診療相互援助システム(OGCS)について」

6. 千葉 喜英 「分娩前救急搬送の現状」
7. 寺尾 俊彦 「静岡県における 2,500g 未満児の出生体重別年次推移(過去10年間)」
8. 西島 正博 「当院における母体搬送の現状」
9. 野口 圭一 「当地区における周産期医療の現状について」
10. 下川 浩 「当院分娩部受診妊産婦の分析——患者の流れを中心に」

### 3. 小川班：新生児救急医療システムに関する研究班

#### 1) 第1回

日 時：昭和61年9月5日(金) 午後2時～3時

場 所：大阪府立母子保健総合医療センター

出席者：小川雄之亮，五十嵐郁子，稲川 昭，鬼頭 秀行，後藤 彰子，竹内 豊，

千葉 力，中村 肇，戸苺 創(代.渡辺 勇)，増本 義

議 事

##### (1) 会計の説明

特に研究班に初めてのメンバーのために支出法などの要点と注意点を説明。

##### (2) 研究計画についての討議

本年度は研究計画書通り、各地域もしくは各施設における過去のデータを解析して NICU の入室患児の重症度分類と病床占有率を調査。調査方法は各研究協力者に一任。

第2回班会議にデータ等をもちより discussion を加えて、班としての NICU 入室の規 準案を作成の予定。なお、NICU 入室の基準については現行の健保の施設基準にとらわれ ず、個々の考えで案を出すことが決められた。

##### (3) 第2回班会議について

昭和62年1月18日(日)が第1候補としてあげられた。

場所は、東京もしくは埼玉(川越)、ちなみに日本周産期学会は、昭和62年1月16日午後 および1月17日全日、横浜で開催される予定。

#### 2) 第2回

日 時：昭和62年1月18日(日) 午前10時～午後3時

場 所：東京ステーションホテル

出席者：小川雄之亮，五十嵐郁子，稲川 昭，鬼頭 秀行，後藤 彰子，竹内 豊，

竹内 徹，竹峰 久雄，千葉 力，戸苺 創(代.鈴木 重澄)，

中村 肇，増本 義，川瀬 淳，武井 治郎，小林美智子

## 議 事

### 報告事項

- (1) 研究報告書、会計報告書の作成について
- (2) 研究班総会について
- (3) 今後の日程、締切について

### その他

- (4) 研究報告

